

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 4 月 16 日 (2020.4.16)

【公開番号】特開 2020-7748 (P2020-7748A)

【公開日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【年通号数】公開・登録公報 2020-002

【出願番号】特願 2018-128165 (P2018-128165)

【国際特許分類】

E 0 6 B 1/60 (2006.01)

【F I】

E 0 6 B 1/60

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 3 月 9 日 (2020.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

【図 1】図 1 は、本発明の一実施形態に係る建材の連結具が適用されている開き戸装置の全体正面図である。

【図 2】図 2 は、開き戸装置側の建材となっているドア枠を示す全体正面図である。

【図 3】図 3 は、第 1 連結具と第 2 連結具により、ドア枠と、躯体側の建材となっている補強部材とを、補強部材に取り付けられている補助部材を介して連結している構造を示す全体正面図である。

【図 4】図 4 は、図 3 の S 4 - S 4 線断面図である。

【図 5】図 5 は、図 3 で示されている第 1 連結具の全体を、図 3 及び図 4 で示されている補助部材を含めて示した斜視図である。

【図 6】図 6 は、図 5 の正面図である。

【図 7】図 7 は、第 1 連結具及び第 2 連結具の構成部材となっている第 1 連結部材を示し、(A) は平面図、(B) は側面図、(C) は底面図、(D) は背面図である。

【図 8】図 8 は、荷重が作用したときの第 1 連結部材を示し、(A) は平面図、(B) は側面図、(C) は底面図である。

【図 9】図 9 は、第 1 連結具の構成部材となっている第 2 連結部材を示し、(A) は側面図、(B) は背面図である。

【図 10】図 10 は、図 5 及び図 6 で示されている第 1 連結具の第 1 連結部材と第 2 連結部材が平行又は略平行となっているときの状態を実線で示した正面図である。

【図 11】図 11 は、第 1 連結部材と第 2 連結部材が図 10 の実線で示した状態になっているときにおける第 1 連結具を示す側面図である。

【図 12】図 12 は、図 11 の S 1 2 - S 1 2 線断面図である。

【図 13】図 13 は、第 1 連結部材と第 2 連結部材が図 5 及び図 6 で示されているようにくの字状となっているときにおける第 1 連結具を示す側面図である。

【図 14】図 14 は、図 13 の S 1 4 - S 1 4 線断面図である。

【図 15】図 15 は、第 1 連結部材及び第 2 連結部材を図 4 の補強部材に取り付けられた補助部材に結合具で結合する以前の状態を示す図 4 と同様の図である。

【図 16】図 16 は、第 1 連結部材及び第 2 連結部材を二点鎖線で示した補強部材に結合具より結合したときの状態を示す図 13 と同様の図である。

【図 17】図 17 は、図 16 のときの状態を示す図 4 と同様の図である。

【図 18】図 18 は、図 16 及び図 17 の状態のときに第 1 連結具の第 1 連結部材が被係止部材となっている中心軸に係止していることを示す拡大断面図である。

【図 19】図 19 は、第 1 連結部材及び第 2 連結部材を補強部材に取り付けられた補助部材に、中心軸の軸方向における同じ側に配置された結合具により結合したときの状態を示す図 16 と同様の図である。

【図 20】図 20 は、図 19 のときの状態を示す図 4 と同様の図である。

【図 21】図 21 は、図 19 及び図 20 で示した結合具を適用できる建物の構造を示す平面断面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

これにより、第 1 連結部材 21 の全体では、2 個の連結部 26 におけるそれぞれのドア枠 2 側の端部 26B の形状が、ねじり角度 β のために、第 1 連結部材 21 の内側へ閉じた逆ハの字状となる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

上述したようにして複数個の第 1 連結具 20A を側枠部材 2A, 2B と補強部材 7 との左右方向の間隔、及び上枠部材 2C と補強部材 7 との上下方向の間隔に挿入した後に、作業者は、それぞれ第 1 連結具 20A における第 1 連結部材 21 と第 2 連結部材 22 のうち、少なくとも一方の連結部材を他方の連結部材に対して中心軸 24 を中心に側枠部材 2A, 2B 側や上枠部材 2C 側とは反対側に回動させる作業を行う。この回動作業は、例えば、第 1 連結部材 21 の図 7 で示した第 2 孔 29 や第 3 孔 30、第 2 連結部材 22 の図 9 で示した第 2 孔 38 や第 3 孔 39 に工具等を挿入することにより実施できる。